

ABCプラットフォーム人材育成活用部会の定例イベント

2020年5月12日にオンライン（ZOOM使用）開催

ブレイクアウトセッションによる出た意見

ブレイクアウトセッションのテーマ

1. 新型コロナウイルスの影響と出口（就職・起業・進学）などについて情報提供、課題、採用方法など
2. 日本語教育の取組、実務で使えるレベル、日本語について 企業の方からは要望、連携の提案、教育機関からは取組とインターンシップは会話力を上げる提案
3. オブザーバー行政機関様は取組や、連携支援について
4. その他情報提供いただける最近感じていることをお話ください。

・新型コロナウイルスの影響について（企業）

→（事業体）観光業、インバウンド関連は特に厳しく、巣ごもり関連等の商品などは売り上げをあげているのに対して、インバウンド専門の事業（満身創痍でオープンにこぎつけた）を行っていたが、閉店することになった。

→（環境）戻ったとしても、前と同様な環境になるのには、時間がかかると予測している。

→（出口）外国人の出口（就職）についても、当面、事業の方向性や予測も難しく先が見えない状況のため、当面厳しいのではないかと。

・新型コロナウイルスの影響について（学生）

→（ベトナム）海外からの渡航を制限しているため、ベトナム航空は、6月まで延期したがそれ以外も同様と考えられる。海外のコロナウイルスの状況による。

→（インドネシア）海外からの渡航を制限が解除されれば、授業を受けることができる。ビザは、入管の計らいにより延長となっている。

→（留学生の入学時期など）リモートや、延長という対応になっている。

・海外における日本語教育の取組（タイ）

→（日本語のニーズ）

タイの日本語教育は、非常に増えている。

短大大学だけでなく、中学校の選択科目の第2外国語での人気が高くなってきている。現地日本語学校への入学も、何らかの形で日本語を学習した人の入学が多い。

レベルが上がってきている。

→（日本語ニーズの目的）留学希望者や日系企業の就職を求めている。

・海外の日本語学校のスケジュール（タイ）

→学生自身が、入りたいときに入り、自分の求めているレベルに達成すればそこで終わるといった仕組みになっている。

・日本企業と海外の教育機関との連携（タイ）

→（学校からの送り出し）

基本的には、学生から様々な日本の企業にアプローチかけるスタイルではない。

→（日本企業の求人によるマッチング）

日本の企業からの求人を、学校が情報発信し、学生を教育し、マッチングしている。

日本で働きたい人材は多い。条件などを整えて、募集をかければマッチングできる。

・ホーチミンにおける MEET UP KANSAI について (ベトナム)

→ 昨年の報告の中にすでに盛り込み済みで、すでに外務省の了承を得ている。

今年も開催ができれば、周辺各地方と交流させたいと考えている。

・リモート会議について

→ ベトナムと日本の距離が短くなっていると感じる。とても良いことである。

・タイの大学では日本語より中国語が人気→ただし介護などでの特定技能が注目を集めている。

・コロナウイルスの影響で進路変更希望者が多くなっている。

→ オンラインを使ったサポートの問い合わせが増えている。

・日本語学校では新入生の入国、卒業生の帰国困難者への対応が難しい。

→ 土壇場で進路変更した学生もいた

・観光業はやはり影響が大きい→オンラインでの研修などを強化している (ベトナム)

・技能実習生も帰国困難者が多くいる。→特定活動や特定技能に切り替えが増加。(日本国内)

・看護、介護は変わらず人手不足

→ 求められる日本語のレベルが高いのもネック

・タイの大学では日本語より中国語が人気→ただし介護などでの特定技能が注目を集めている。

・コロナウイルスの影響で進路変更希望者が多くなっている。

→ オンラインを使ったサポートの問い合わせが増えている。

・日本語学校では新入生の入国、卒業生の帰国困難者への対応が難しい。→土壇場で進路変更した学生もいた

・観光業はやはり影響が大きい→オンラインでの研修などを強化している (ベトナム)

・技能実習生も帰国困難者が多くいる。→特定活動や特定技能に切り替えが増加。(日本国内)

・看護、介護は変わらず人手不足→求められる日本語のレベルが高いのもネック

ヤマトスタッフサプライ様：肉体労働のため今まで嫌厭されていた職種やったが、コロナの影響で逆に応募が殺到している。一回求人を出すと100名ほど集まる。外国人留学生の応募が増えている。現状、面接は今まで通り対面にて行なっている。

ガルベラパートナー様：日本で就職予定やった中国人の方など、コロナが影響で日本での就職を断念しているケースがある。また、4月入職の方が取り敢えず8月以降の就職にシフトされて宙ぶらりんの方が出ている。

大阪経済法科大学様：新学期始まってから学校への出入りは原則禁止。ゴールデンウィークから授業を全てオンライン化。春休みに母国に帰っていた留学生は日本に帰って来れていない。また、オンライン授業が決定すると母国に帰る留学生が増えている。動くのが遅かった方はセミナーなど全ての就活イベントが止まっているので動きようが無い状況。生徒と企業とのマッチングを、どのようにするか模索中。起業志望留学生は、中国人を筆頭に一定数在籍。

SNS コンサルタント様：美容師業界でも外国人財雇用を勧めていく流れ。外国人財の日本語能力、ホスピタリテ

ィに感銘を受けている

AGS JOINT STOCK COMPANY 様

ベトナム進出する日本企業の設立からフォローまでサポート。ベトナムは日本語学習者が多く、ベトナム⇄日本語の翻訳業務もスタッフを使ってさせている。

自社でかかえるベトナム人スタッフは、今のところ教育する必要がないほど優秀である。

グラムファクトリー様

美容・健康商材の卸会社。ベトナム、中国、マレーシアからの美容商材に関するニーズは増えており、展示会などでは通訳を活用し、WECHT など SNS を介して対応している。

一般社団法人日越ビジネスセンター様

日越での交流会を企画・実施（過去 7 回）。最近では、オンラインを活用した支援なども行い、現地・日本両方での採用サポート、また大手企業からも採用業務を一任されるほどベトナムに特化。

株式会社クロボ様

グローバル人材紹介。ホテルなどの宿泊施設への紹介が多かったが、コロナ禍で大打撃。しかし、ニーズが高まるデリバリーなどのサービス業界へシフト。また、コロナの機に、オンライン商談・面接・契約が成り立ち受注も倍以上。リストラにあった外国人人材を救済し、3・4 月は無料派遣キャンペーンを実施し、多くメディアにも取り上げられる。提案：人によって、日本語上達速度は違う。受け入れ企業はそこを理解し、伸びしろに期待してあげてほしい。

BPR 外でも貴重な意見：論理的に話せるような教育もポイントでは（結論⇒理由の順番に話せさえすれば、日本語の会話力がなくても有利的だという意見）

辻調理師専門学校様

料理・お菓子の教育。約 350 名の留学生を受け入れほとんどが漢字圏。ベトナムからも 2、3 名受け入れはしているが多くはない。衛生に関する難しい言葉もあることから入学時点では N2 を要求。まだまだ外国人労働者の飲食業界への就職機会は少ないが、昨年からの特定技能の分野に期待、就職サポートをしていきたい。

畑ダイカスト工業様

建築金物、自動車・バイク部品加工会社。ベトナム人スタッフを数名雇用。教育課題としては、社長が発する「関西弁」が通じない。対策として、日本語による 3 分間スピーチ実施、また社長自らスタッフと交換日記をすることでコミュニケーション機会を増やすことで解決。

「関西弁の本」を畑社長に紹介させていただきました。

<https://www.amazon.co.jp/Colloquial-Kansai-Japanese%E2%80%95%E3%81%BE%E3%81%84%E3%81%A9-language-library/dp/480530846X>

トラポル合同会社様

関西電力の社内スタートアップで海外ローカル旅「トラポル旅行サービス」の提供。ベトナムへの旅行サービス。

若い層をターゲットにベトナムローカルフレンドの交流&現地に溶け込む体験を企画販売。ベトナム人スタッフが国内1人、現地8人雇用。日本語教育について、生の日本語を求めているベトナム人に、日本人観光客との交流させることでWIN-WIN! コロナ禍でも日本&ベトナム zoom 飲み会提供している。言葉が通じなくても「絵(画)力を競うゲーム(お題例:何も見ずにアップルのロゴを書く)」などをして盛り上がったなどのトピックス。

Q1 新型コロナウイルスの影響と出口(就職・起業・進学)などについて情報提供、課題、採用方法など

【企業より】・物流は停滞。人が余っている。今は外国人⇒日本人にシフトしていつている

【学校より】・就職が取り消しになり、ギリギリで専門学校に ・就職約10名はほぼ観光業なので、今後厳しくなるだろう。

・最近では、企業が直接採用したいということで、学校に説明会などをしにきている。

Q2 日本語教育の取組、実務で使えるレベル、日本語について

【企業より】

- ・入社後、まだ日本語がうまくないので報奨金を出して、N3とかN4を勉強する機会を与えている
- ・共同生活のルールを教えてほしい(仕事も生活も)
- ・現場でこれだけは覚えてほしい現場用語を、週に何回かを決日程を決めて、教えている
- ・ホテル学科からきてもらっているが、まだコロナで働いていない

【学校より】

- ・就職したい学生したい人が増えているので、コースを分けた。就職したい人には別途面接などの指導を行っている
- ・80名のうち50名が就職希望(ほとんどN3、N2)なので、ビジネスマナーやTOEICなどにも力を入れて、スキルアップに努めている
- ・インターンなどもどんどんしていきたい

Q3 その他

●コロナ影響のこの4月からの状況

- ・学生120名のうち、20名くらいしか来日できていない(全体の1割あたりのところが多い)
- ・オンライン授業を取り入れているが、完璧ではない、漢字圏でないので、ミャンマーなどオンラインはしんどい。
- ・ネット環境がない学生が多い、郵送で課題を送る

●これ以上、入国が遅くなると、何か月遅れまで、3月卒業にもっていけるのか?

- ・目標はまだ3月おしりにもっていく
- ・夏休みなどに、授業の増加プラス課題対応、こういった情報を、一番末端、該当の留学生にもれなく正確に伝えていくことが大切ではないかと感じました。
- ・企業はやはりのきなみマイナスの動きが多いが、プラス面も含めて正確にスムーズな情報提供が、該当留学生には必要だと感じました。

世の中のネットニュースなどに振り回されることとなります。モチベーション維持と、今後の留学生への影響も考え、サポートが必要であると感じました。

大阪観光協会様→マスクを留学生向けに寄付を行った。留学生、外国人労働者が困っていることをもっと知りたい

ダイワアカデミー様→留学生は、オンライン授業。帰国予定者は、帰国便がなくなりこまっている

WASABI 様→失職者、転職者が増えている

TRAPOL 様、大阪外食協会様 →コロナの売り上げへの影響が大

奈良コンピュータ様→インターンシップを実施できていない。来年3月の就職達成率を例年通り、維持できるようにがんばりたい。

・医療機関と介護施設がベース。介護の学校が大阪にある。日本語学校を卒業された方が入学されてくる学校。奈良に学校を作ったが学生は定員が決まったが、まだ海外におられ入学ができていない。そのため Zoom を活用した授業を実施している。介護の方は 30 名ほど日本に来られているが、中国にいる方もおられる。小中学校でも ZOOM を活用した授業や動画を使った授業をみて学生が課題をこなしていく仕組みになってきている。海外の大学と連携しながら日本語学習をしたり、日本人の講師を現地に送ることが難しいが遠隔でサポートができるため、やり方を改めて見直す機会になっている。在留管理庁からの指導もあったり海外大学と連携していくことで今後もこういったオンラインを活用した進め方をしていきたい。

・高齢者福祉、グローバルというよりは地域密着型。対応策には大きな指示は出ていない。今後の外国人の活用を検討している上で、情報交換を考えての参加。実際に日本に来てもらうことが決まっている人が来れない状況で不安になっている。そのため Zoom などを利用してコミュニケーションをして安心してもらえるように対策している。来てもらうことは決まっているということで大丈夫だよと発信している。現状は日本人の職員だけで対応はできているが、今後 5 年 10 年を考えると必要な人財であると考えていて、3 年から 5 年をかけて人財育成をしていく姿勢をもって取り組まれている。経営方針の違いで福祉法人でも人が必要などころもあれば、そうでもない法人もある。

・求人をだすと外国人の応募が増えている。コロナの影響で解雇されてしまったという原因がある。中国など漢字圏の方に関しては採用につながるが、日本語レベルが低くなると難しい。こういったオンラインを使って採用につながる教育をしていきたい。

・緊急事態宣言前に 1 回目のミーティングに参加。人財採用の流れが変わったと感じている。IT エンジニアのマッチングを進めて行こうと考えていたが、コロナの影響で日本人を採用しようという動きが進んでおり、外国人は後回しになっている。今は日本人をと考えていても相対的に人が足らなくなるので本当にそれでいいのか疑問を感じる。独自のスキルを学び採用につながるように仕組みを作って有利になるように対応していこうと考えている。

・JICA の計画で 10 月以降になるが前半の動きを後半に一気に集約されるため混乱が生じるのではないかと懸念されている。3 月から在宅勤務を続けており、今まではデジタルの活用をしていなかったが意外と使えるようになってきた。採用面接もオンラインで実施し、採用された人員も一度も入社せずにオンラインで働いている。デジタルを活用していく方法がわからないというのものもある。

・一か月以上自宅勤務に入っている。たまに事務所に出て働く方が効率が良いという意見もあれば自宅の方が集中できるという意見もある。自分のタスク次第で在宅や出勤するかなど臨機応変に対応していく傾向にある。

それぞれの意見を聴くことで色々な気づきと共に、新しい価値を生み出せるように思います。こういった Zoom での意見交換を個別に開催していき、課題を発見し、解決する企画立案を皆さんと実施していくことで、今までにない社会づくりができるのではないのでしょうか。

★池田泉州銀行 齋藤様 Q&A

Q：全国で約1000名ほど留学生アルバイトを抱えているが、せっかく日本に留学きても母国に帰って働きたいなど彼らの進路について相談されることがある。それらについて参考になるアドバイスを知りたい。

A：海外の日系企業は、自国で日本語を学び日本語を話せるようになった人材よりも、実際に日本国内で働いた経験がある人材を求めているし重宝される。課題は日本との物価の違い、給与の違い。この当たりをしっかりと共有してあげる。求人検索は SNS を活用など。

Q：今回のコロナの影響で、ベトナムから日本への就職、留学についての人気度

A：人気度に変わりは無い。日本語出来る方や日本の仕事の仕方を学んだ方は、給料は高いので。

また香港貿易発展局 リッキーフォン氏よりメールにて、「ブレイクアウト・セッションにも議論されました、学生の就職等について、業界によっては、4月の一括雇用の概念も考え直すいいタイミングではないでしょうか？

雇用主の観点では、もはや留学生は安い労働を確保するためのコスト節約ではなく、留学生が持っているダイバシティと能力を評価し、日本人ではできないような仕事を任せるぐらいの経営判断をする必要があると思います。これも日本の社会全体が変化する必要がありますが、時間が掛かります。微力ながら、今後もサポートして参りたいと思います。」との言葉をいただきました。